

解答

一

問一 本願

問二 エ

問三 〈ゴミ箱〉にはゴミを捨てようと思っている人が一方的に意識を向けるだけで、人との間にそれ以上の心理的な関わりは生まれようもないが、〈ゴミ箱ロボット〉は、その何とも頼りない動きと開けっぴろげな雰囲気が目を引き、ゴミを持っているわけでもないのに、作業を手伝ってあげたくなるような気持ちを人に抱かせる。

問四 すべての作業を自分の力だけでやりとげることを目指した〈ゴミ箱ロボット〉は、問題が生じるたびに新たな能力や機能を加え続けられたあげくに、想定外のことに対して脆弱で、柔軟性に欠けるといふ根本的な問題はいつまでも解決されずに残ったままとなる。一方、できることに限りがあるのは最初から織り込み済みの〈ゴミ箱ロボット〉は、できないことを人に手伝ってもらうことで、あっさりと実力以上の成果を上げてしまう。

問五 わたしたちの自在に動く柔らかな手がなければ、ハサミは何の役にも立たないが、そのハサミがあれば、わたしたちの柔らかな手は堅いひもを断つことができる。認知症のスタッフは注文とちがう料理を運んでしまうが、その懸命な仕事ぶりはレストランの緊張感を和らげ、客は思わず片付けの手助けしてしまう。「弱さ」という「のりしろ」によってつながったもの同士が協働することで、しなやかな関係性が作り出される。

問六 エ

二

問一 A 挙句（挙げ句・揚句・揚げ句） B 真似た C 語気

問二 虫

問三 大勢の村人たちを追いつめたのは、見世物のようになって不愉快だろうと思ったからであり、女中を問いつめたのは、粗末な食事では空腹を満たせないだろうと思ったからである。どちらもイザベラのためにしたことなのだから、感謝されるかと思いきや、イザベラ本人にとがめられて納得がいかず、腹立たしくて仕方なかった。

問四 昔から寺子屋があるおかげで、都会や近郊での識字率は来日する西洋人が驚くほどの高さであることや、東京や横浜以外にも、充実した医療や教育が受けられる地域はたくさんあることを誇りに思っている鶴吉にとって、田舎には貧乏で無知な日本人がいまだに多く残っているという事実を西洋人に知られ、嘲笑われるのはどうにも耐えがたいことだったから。

問五 会津の田舎の村で、医者に診てもらうこともできずに苦しみ続けている人たちに、持っていた薬を分けてやったら、翌日、別れを惜しんだ大勢の村人たちが村はずれまで見送りにきて、拜んだり、手を振ったりしながら、口々に「サンキュー」と叫び、感謝の気持ちを伝えてくれた。日本の田舎には、いまだ文明の恩恵を受けられない貧しい人たちがたくさんいるが、彼らはイギリス人が忘れてしまった純朴な心を持っている。